

検証・浦和電車区事件の真実 No.42

民主化闘争情報 [号外] 2008年8月18日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第42回 東京地裁で刑事裁判の公判始まる

2003年2月25日、浦和電車区事件の被告7名に対する刑事裁判の第1回公判が東京地方裁判所で開かれた。まず、検察側が起訴状を朗読。「被告らはY氏（当該事件被害者）が他労組組合員とキャンプに参加したことなどについて因縁を付け、多数で共謀のうえ、2001年1月～6月にかけて計14回にわたり脅迫し、JR東労組からの脱退およびJR東日本からの退職に至らしめた」との趣旨の起訴事実を読み上げた。これに対し、被告本人と被告代理人が「無罪」を主張、最後に検察側が冒頭陳述を行い、数々の犯行について詳細に述べた。

Y氏は勇気を出して真実を証言！

2003年5月2日（第3回）、5月20日（第4回）、6月24日（第5回）、7月7日（第6回）、7月29日（第7回）では、Y氏本人が事件の事実経過について証言した。第3回、第4回は検察側からの主尋問だったが、第5回～第7回は被告側からの反対尋問が続いた。各回とも公判は4～7時間にも及んだ。Y氏は被告らの顔を見るのも嫌だったが、極度の緊張の中、勇気を振り絞って、長時間の尋問に臨んだ。

法廷では、証言台の後ろから7名がY氏を凝視して座り、その後ろの傍聴席にはJR東労組の関係者がY氏を威圧するように多数陣取っていた。Y氏の証言に対して被告らが何か呟いたり、傍聴者が嘲笑するのが聞こえることもあったが、じっと耐えて懸命に真実を証言した。

Y氏が退職したのは「いじめからです」と区長が証言

9月19日（第8回）、10月7日（第9回）では、浦和電車区I区長、K副区長が検察側の証人として証言台に立った。第8回公判の主尋問で、両名は次のように証言した。（次号に続く）

【検察官】証人は、Yさんが自分の本心で望んでJR東日本を退職したというふうに思っていますか。

【I区長】思っておりません。Yさんの退職理由の内容もありまして、自分の本意ではなく、退職したのだと思っています。

【検察官】Yさんが退職した理由はどういうことにあるというふうに考えていますか。

【I区長】いじめからです。仕事に就けられないというような感じで辞めたんだろうというふうに考えています。

【検察官】Y社員の退職の理由ですけれども、証人は東労組の組合員からの嫌がらせが原因だというふうに理解しているということですか。

【K副区長】はい。

【検察官】東労組組合員の言葉による攻撃の程度、強さというのは、どのようなものだと思っていますか。

【K副区長】かなり激しいものがあつたかなというふうに思っています。